

## 第21期第5回常任理事会議事録

日時 昭和55年12月20日(土) 10.00~11.45

場所 気象庁東京管区気象台会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 河村, 黒木, 杉村,  
竹内, 増田, 村山

## 報告

- [庶務] 1. 12月2日, 文部省学術国際局長から, 昭和55年度科学研究費補助金「研究成果刊行費」の支出について通知がきた。
2. 12月2日, 日本気象学会昭和55年秋季大会実行委員長山元龍三郎氏から, 秋季大会終了報告書がきた。
3. 12月12日, 日本学術会議会長から, 放射性物質を使用する際の心構えについて科学者・技術者に訴える(声明)がきた。
4. 12月13日, 朝日新聞社から, 昭和56年度朝日学術奨励金について案内がきた。
5. 12月16日, 「女性科学者に明るい未来をの会」会長湯浅明氏から, 1981年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者推薦依頼がきた。
6. 12月19日, 国立極地研究所長永田 武氏から, 第3回極域気水圏シンポジウムについての案内がきた。

- [会計] 1. 昭和56年度学術定期刊行物計画調書を, 文部省国際学術局図書館課に提出説明を行った。刊行予定頁数700頁, 補助金要求額2,875,000円。
2. 昭和56年度前納会費は, 11月10日から請求を開始, 順調に入金している。12月18日現在約860万円。
3. 評議員との懇談会では, 財政問題について別紙資料にもとづき簡単に説明したい。

[講演企画] 12月8日, 講演企画委員会を開催, 次期のシンポジウムの内容について検討。当番支部の意向を反映する。

12月8日, 日本学術会議講堂で行われた気候変動シンポジウムは, 大盛会で150名以上の参加者があった。討論の時間が少なかったため, もっと時間的余裕が欲しかった。

[山本賞] 11月17日, 3名の候補者を推薦, 委員の中で論文を廻し読みしている, 2月には報告したい。

- [教育と普及] 1. 昭和56年度の夏季大学教室開催(東京)について概要説明があった。
- (1) 熱収支と気候変動(仮題)
- (2) 8月3日(月)~8月6日(木)(予定)
- (3) 会場は未定
2. 普及講座(「天気」掲載)
- 夏季大学のテキスト掲載分以外になるべくバラエティのあるテーマを選んで毎号掲載できるように依頼する。
3. その他
- 普及書の刊行(シリーズ)等が議題に出ているので次回以降検討する。

## 議題

## 1. 評議員との懇談事項について

## (1) 財政問題

荒井理事から次のとおり説明が行われた。本年度の予算は, 計画に沿って実行しており, 賛助会員会費と来年度の前納会費の入金も順調である。前年度になかった点については,

(ア) 昭和54年度の確定申告に対して国税の見直し調査があり, 2年分の在庫が調べられた。この結果, 「気象研究ノート」は収益事業とされ, 約50万円の追徴金を支払った。この対策として年に数回税理士に見てもらうことにした。

(イ) 気象研究所の筑波移転に伴い, 委員の旅費が不足するので, 各委員会予算に5千円を追加した。

(ウ) 春と秋の大会で, 講演企画委員と座長との懇談会を復活した。

昭和56年度予算案は, 本年秋の全国理事会で提出した第1次予算案に対する修正案が承認されたので, これを組み入れて第2次予算案を作成する。

## (2) 100周年記念事業の進捗状況について

岸保理事長から次のとおり概要を説明することとした。

(ア) 「天気」「気象集誌」の特別号の発刊について着々作業が進んでいる。100年史も刊行する。

(イ) 1982年春季に合同科学委員会(JSC)の気候問題の研究会議が開催される場合, 出席された若

干の著名の方に記念講演をしてもらう。

(ウ) 1982年秋季には、WMO、米国気象学会も共催で記念シンポジウムを開催したい。

(エ) 記念式典、75周年記念式典に準じて行う。

(3) 1985年のIAMAPの総会の誘致の件。

## 2. 学会100年史編纂事務について

担当理事を引き受けた河村理事から次のように構想が

述べられた。

(1) 編集委員会の構成については、気象庁の中の人で協力願える人をお願いしたい。

(2) 奥田会員が75年史を担当されており詳しいので、協力してもらおう。

承認事項、佐々木淳ほか19名の新入会員を承認。